

久住高原からサファリの動物たちへ

経過報告

畜産専攻（経営実践コース）

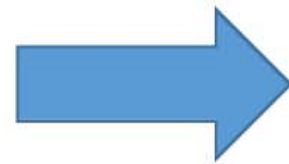
報告者 3年 衛藤 正和

テーマ設定の理由

AFRICAN SAFARI

MAFF

九州農政局



イネ科牧草：「チモシー」
品種：「クンプウ」

試験栽培の依頼

AFRICAN SAFARI

テーマ設定の理由



チモシーは冷涼な気候を好む



久住地域での栽培が可能ではないか？！

→ Point 1 今後、耕作放棄地が増える

Point 2 チモシー栽培マニュアル

を確立と普及



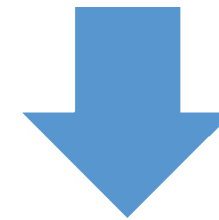
意見交換会

12月10日（木）

AFRICAN SAFARI

神田先生のお話

- ・ サファリで飼育するゾウに栽培したチモシーを与えてみたい
- ・ 学校でのチモシー試験栽培を検証し、久住地域でチモシーを自給できる環境が整えば・・・



アフリカンサファリと農家
経営の安定・向上につながる



昨年度の研究概要

研究材料：チモシー（クンプウ）

試験場所：アグリ創生塾圃場

栽培面積：10a

播種量：5 kg/10a

調査内容：発芽調査（100cm²あたり）

草丈調査（1m²あたり）

雑草調査（1m²あたり）

収量調査（1m²あたり）



昨年度の栽培結果について

播種時期が遅れ積算温度が足りず生育が遅れると予測



追肥 2 回実施



最終的には順調な生育と収量が確保できた



研究内容

今年度の「チモシー」の栽培について



今年度の研究内容等

栽培期間：令和3年9月～令和4年8月

研究材料：チモシー（クンプウ）

試験場所：アグリ創生塾圃場

播種面積：20 a

播種量：3 kg / 10 a

研究内容：発芽調査（1 m²あたり）

草丈調査（1 m²あたり）

収量調査（1 m²あたり）

雑草調査（1 m²あたり）



研究経過①



8月26日および9月6日
耕耘作業



9月7日
播種&鎮圧



研究経過②



発芽調査 1 回目
10月20日



発芽調査 2 回目
11月17日



発芽調査 3 回目
12月14日

研究経過③



追肥

3月3日(木)

研究経過④ 1 番草



6月2日
生育調査（1回目）



6月15日
1 番草刈取り

研究経過⑤ 2 番草



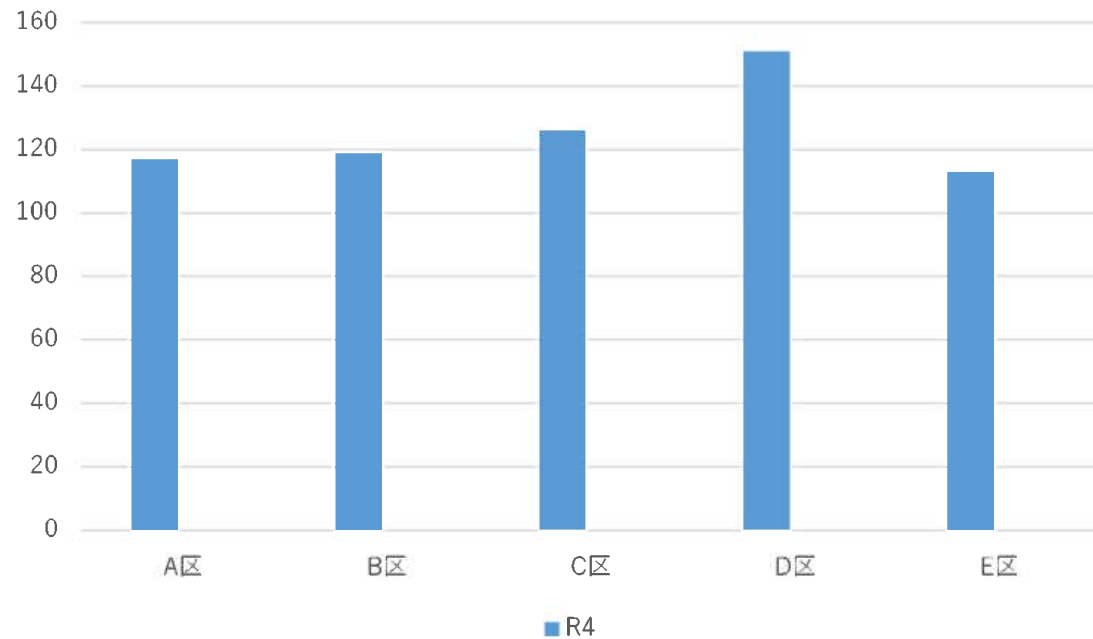
8月4日
生育調査（2回目）



8月26日
2 番草刈取り
(サファリ訪問)

結果 生育調査の実施（今年度） ◎草丈について

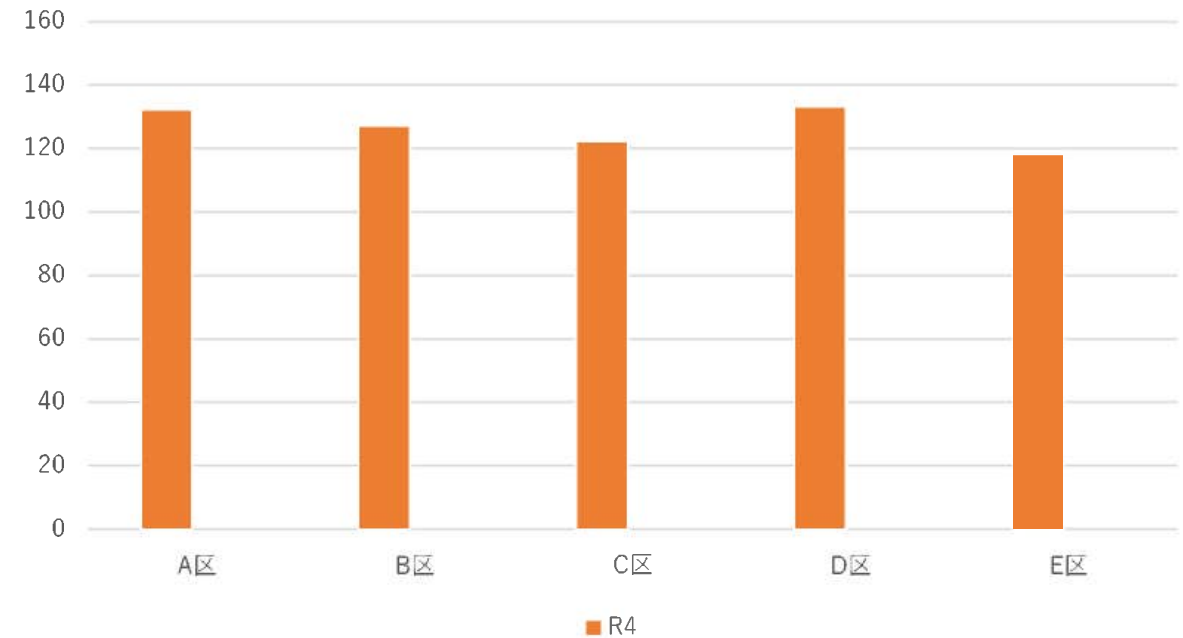
1 番草 草丈



1 番草

平均 125.2 cm

2 番草 草丈



2 番草

平均 126.4 cm

結果

◎収量について

今年度の1番草の収量 ➡ 約 12 t

◎雑草について



雑草
(ギシギシ)
の発生

発芽調査（1 m²あたり）



10月20日

1回目

平均 1 2 1 9 本



11月17日

2回目

1 0 1 6 本

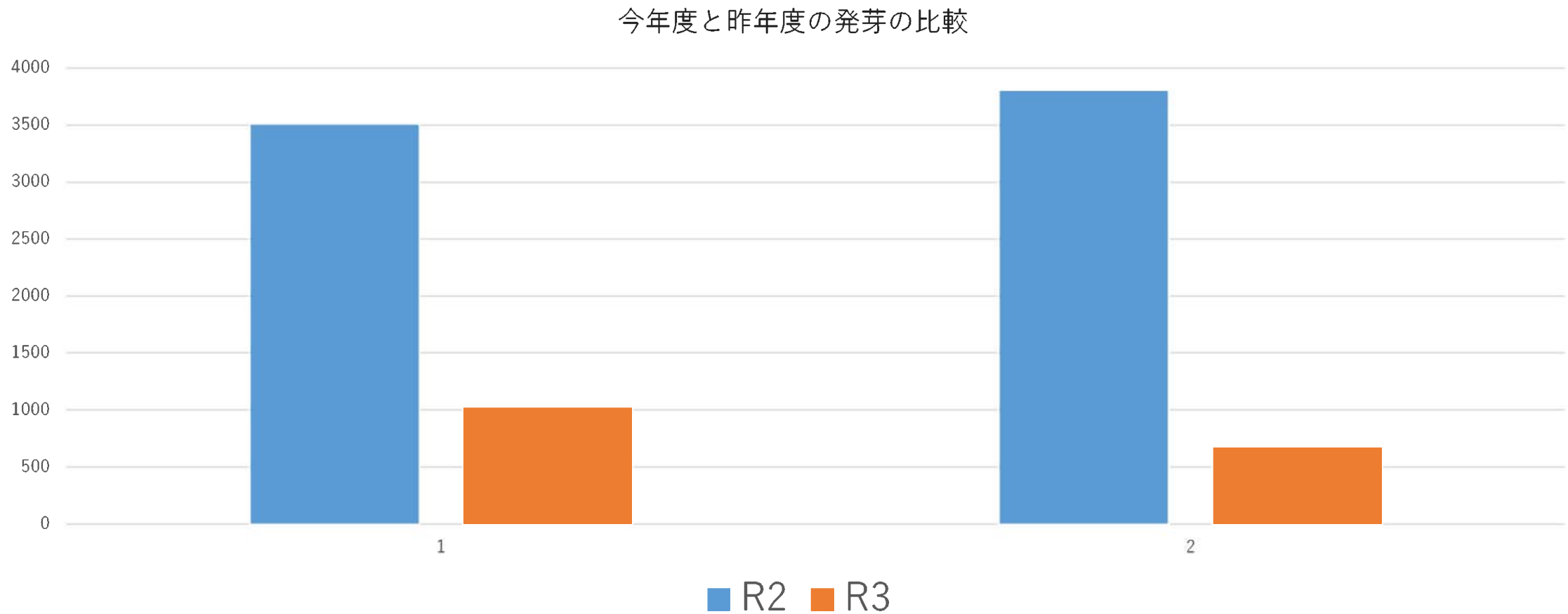


12月14日

3回目

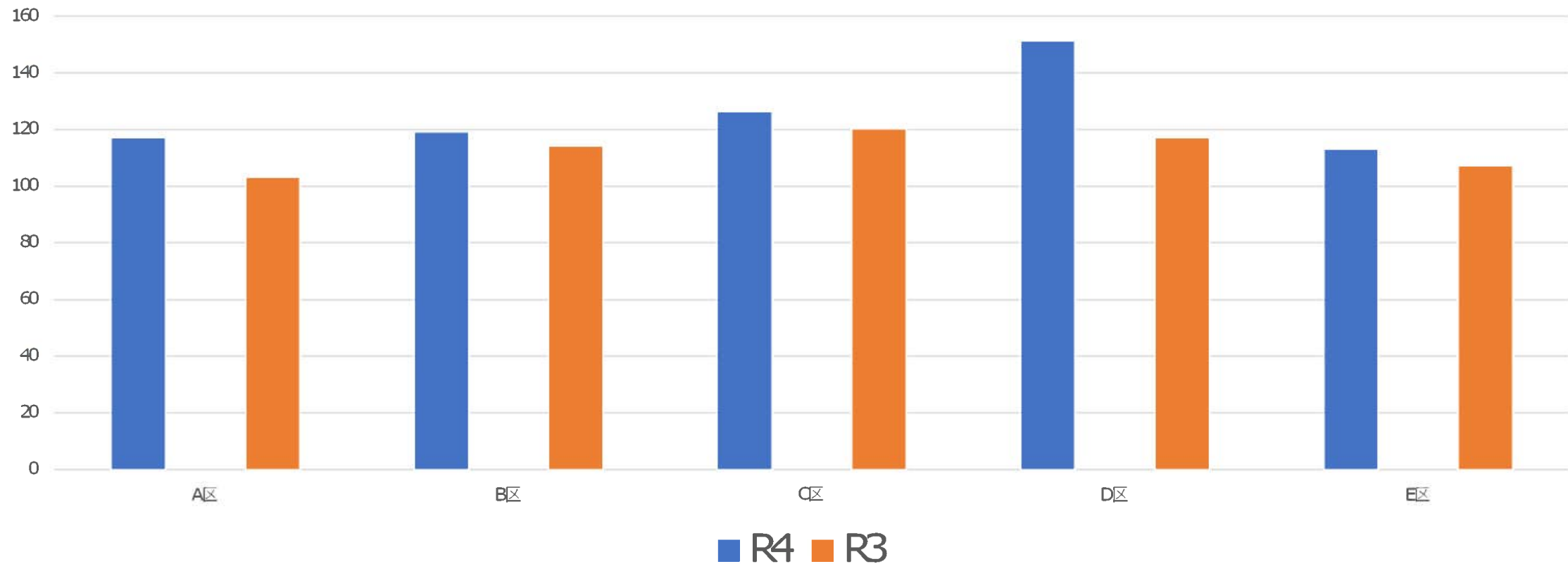
6 6 6 本

発芽について（今年度と昨年度との比較）



1 番草の草丈について (今年度と昨年度との比較)

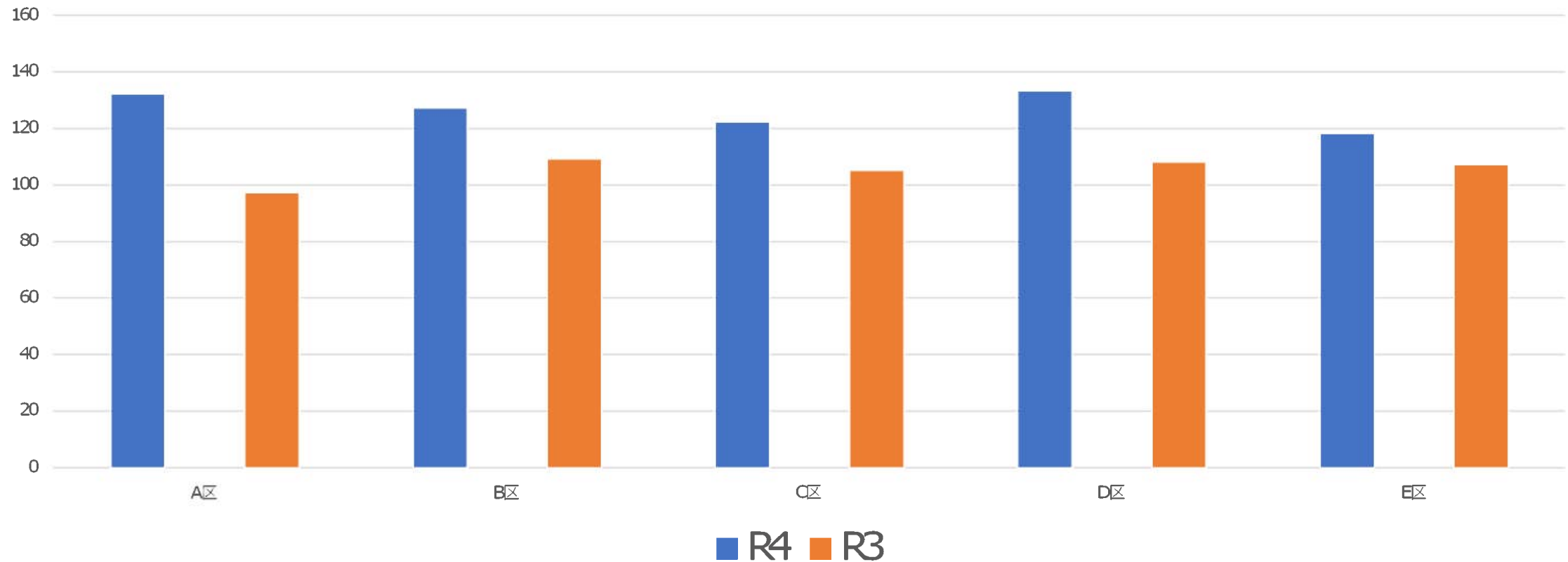
1 番草における草丈の比較



1 番草：全ての区において昨年度より成長が上回る

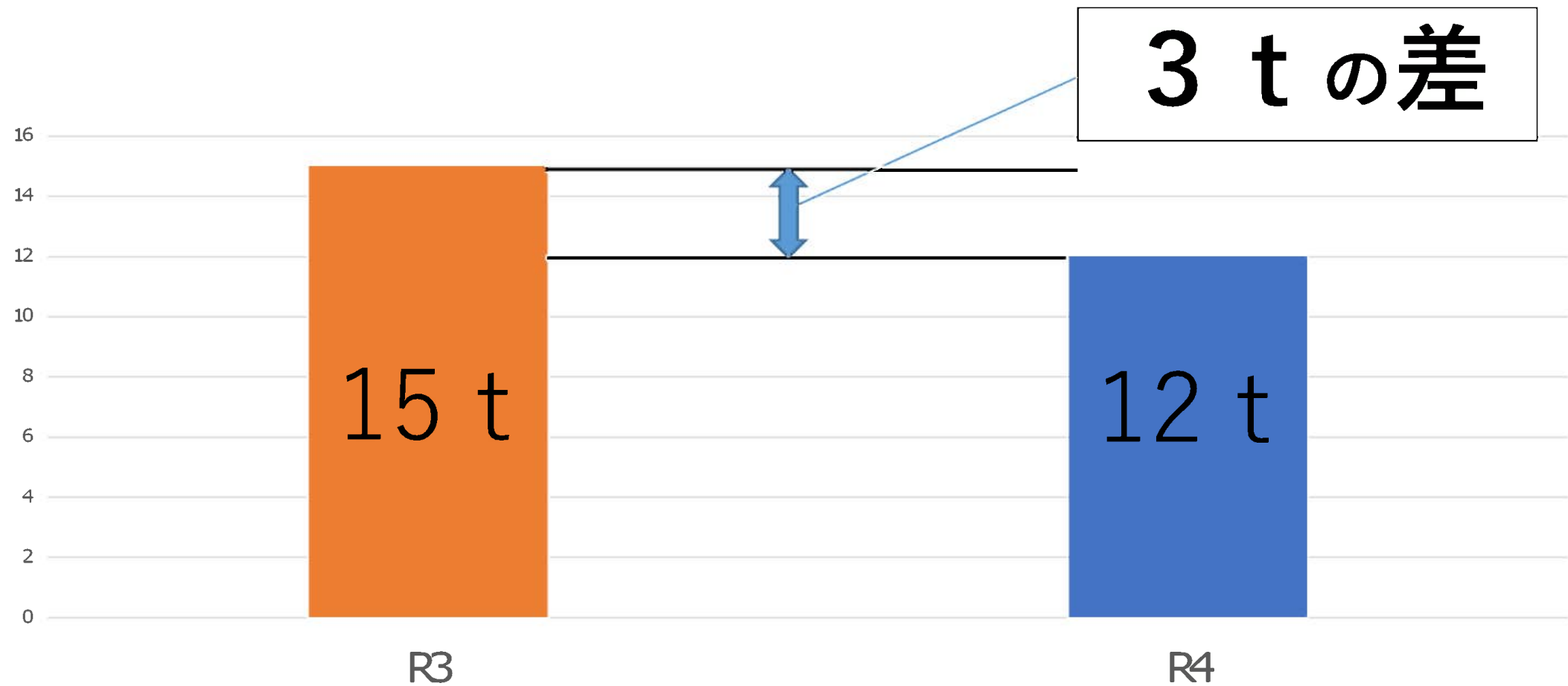
2 番草の草丈について (今年度と昨年度との比較)

2 番草における草丈の比較



2 番草：全ての区において昨年度より成長が上回る

1 番草の収量について (今年度と昨年度との比較)



考察①

発芽について



今年度の播種（9月6日）



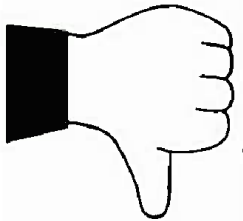
適期に播種



発芽に十分な温度が確保



順調な発芽と生育が確認



播種量は昨年度より少なくしたため発芽数は減少した

考察②その 1

草丈について

昨年度よりも成長が上回る

【要因】



①昨年度と同量の施肥（40 kg/10 a）

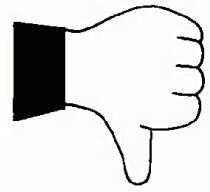
②播種量が少なかった

③チモシー 1 株が吸収する養分量が多くなる



考察②その 2

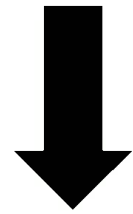
雑草が繁茂する



【原因】

①播種量が少ない

②株密度が低くなった



チモシーの収量にも悪影響

昨年度より 3 t 減少



考察③

2 番草について

乾草をアフリカンサファリに提供する予定であった...



7月中旬以降、天候に恵まれず、収穫時期が遅くなる



【外気温の上昇】

チモシーの外葉が枯れ、雑草の増加



質の良いチモシーを提供できず...

今後の課題

①収穫適期を逃さずにしていくこと

②栽培に適した施肥量の確立

③雑草を抑制するための確実な防除

今後の試験栽培計画

新年度の栽培（3回目）

栽培開始期日：令和4年9月～

研究概要：

- ①更新せずにチモシー種子を追い播きした中での調査
- ②更新せず、越冬させたチモシーの調査
- ③従来通りの40 kg / 10 a 施肥区
20 kg / 10 a 施肥区

※①②③生育調査等の実施

今後の試験栽培計画②

栽培経過と今後の予定

9月21日：圃場に除草剤（ハーモニー）による雑草防除

10月12日：チモシー（クンプウ）の追い播き

12月～後輩への引継ぎ

2月下旬～3月中旬：施肥（予定）



ご清聴、ありがとうございました。